

2016年（平成28年） 4月8日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

3/24~3/30のNYMEX・WTIIは、4か国による原油市況対策の会合への楽観論が後退したのと在庫の増加などから40ドルを下回り、38~39ドルで推移した。

3月31日は、主要産油国の会合に向けて大きなポジションを取りづらくなっていることから売り買いが交錯し、小幅な値動きとなった。5月限の終値は、前日比0.02ドル高の38.34ドルとなった。

週末1日は、4月に開催される産油国会合の行方が不透明になったとして反落した。サウジアラビアの副皇太子が、イランを加えた全産油国が増産凍結に合意しない限りサウジは増産凍結をしないと述べたことが原因。5月限の終値は、前日比1.55ドル安の36.79ドルで終了した。

4日は、イランが制裁前の水準まで市場シェアが回復するまで、増産凍結には加わらないと改めて述べたことから続落した。市場には会合が開催されても、実効性のある合意には至らないのではないかと観測が強まりつつある。5月限の終値は、前日比1.09ドル安の35.70ドルで終了した。

5日は、クウェート石油相が、17日の会合ではイラン抜きでも増産凍結に合意できると述べたことから小反発した。ただし、供給過剰感が根強いことから上げ幅は限定的であった。5月限の終値は、前日比0.19ドル高の35.89ドルだった。

6日は、EIA(米エネルギー情報局)の石油統計で、原油在庫は増加の予想が減少となったため大幅に続伸した。また中国の経済指標が良好だったこともこれを後押しした。5月限の終値は、前日比1.86ドル高の37.75ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週はやや値下がりし35~36ドルで推移した。31

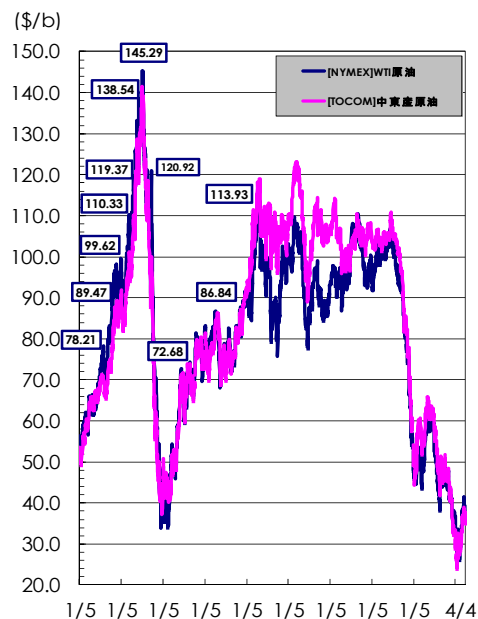
日は35.00ドル、1日は36.10ドル、週明け4日は34.40ドル、5日は33.70ドルと続落、6日は34.60ドルとやや反発した。

為替は、前週はやや円安の112~113円台で推移した。31日は112.68円、1日は112.35円、週明け4日は111.47円、5日は110.99円と円高が進行した。6日は110.40円。

主要元売会社の4月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、横ばいから5.5円の値上がりだった。原油は値下がり、為替は小幅な円高で、原油コストは小幅な値下がりだった。

そのような中で、4月4日時点の小売価格は、ガソリンが1.3円値上がりの114.6円、軽油は0.8円値上がりの98.3円、灯油は0.4円値上がりの61.4円となった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油は3週連続の値上がり、灯油は39週振りの値上がり。この週の原油コスト、元売りの卸価格は値上がりで、前週までの卸値上がりの影響もあり、47全都道府県で値上がりした。

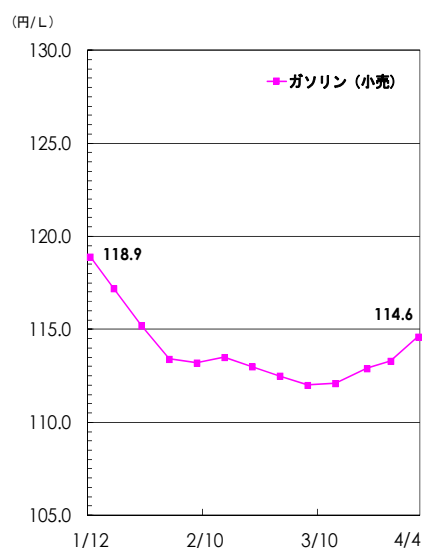
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/27 ~ 4/2	3,770 ▼ -117	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	86.5 ▼ -2.7	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/2	14,352 ▲ 78	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/4	34.82 ▼ -3.15	▼ -20.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/4	35.70 ▼ -3.69	▼ -16.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月上旬	30.94 ▲ 1.02	▼ -23.84
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	22,008 ▲ 430	▼ -19,280
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.10 ▲ 1.56	▲ 6.73
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/4	112.47 ▲ 1.97	▲ 7.58



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/27 ~ 4/2	1,172 ▲ 115	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,051 ▲ 150	▲ -	
	輸出	"	127 ▼ -55	▼ -	
	在庫	4/2	1,682 ▼ -6	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/29 ~ 4/4	38.5 ▲ 2.9	▼ -17.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/29 ~ 4/4	39.9 ▼ -0.6	▼ -17.1
		(TOCOM/中部)	4/4	37.7 ▼ -1.8	▼ -19.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/4	114.6 ▲ 1.3	▼ -24.8	

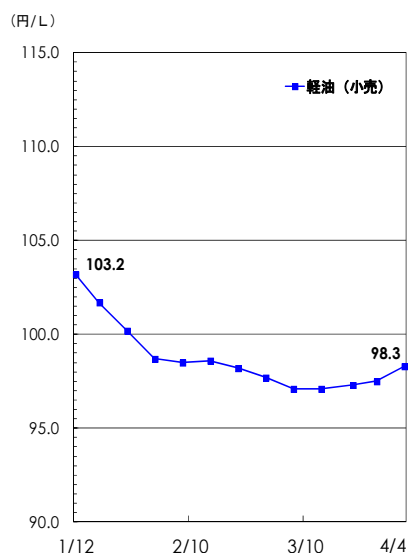
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

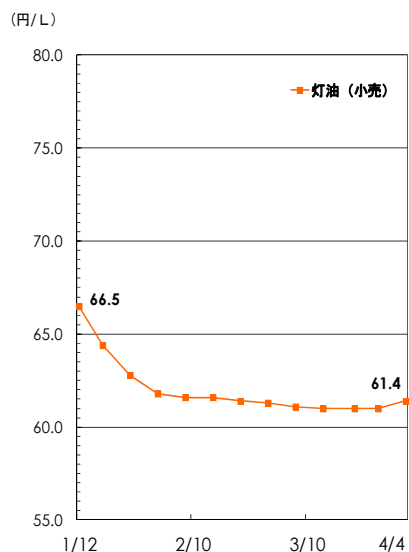
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/27 ~ 4/2	803 ▼ -71	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	679 ▲ 29	▲ -	
	輸出	"	281 ▲ 102	▲ -	
	在庫	4/2	1,322 ▼ -156	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/29 ~ 4/4	36.5 ▲ 2.8	▼ -16.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/29 ~ 4/4	34.7 ▼ -1.5	▼ -18.5
		(TOCOM/中部)	4/4	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/4	98.3 ▲ 0.8	▼ -20.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/27 ~ 4/2	375 ▲ 14	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	307 ▼ -95	▲ -	
	輸出	"	50 ▲ 50	▲ -	
	在庫	4/2	1,145 ▲ 18	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/29 ~ 4/4	36.8 ▲ 2.5	▼ -17.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/29 ~ 4/4	34.8 ▼ -0.7	▼ -18.8
		(TOCOM/中部)	4/4	34.0 ▼ -2.0	▼ -20.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/4	61.4 ▲ 0.4	▼ -22.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

6日のNYMEX市場のWTI原油は、EIAの週間石油統計で、原油在庫が市場の予想に反し減少したことから、大きく値上がりした。

EIAが発表した週間石油統計は、原油在庫が事前予想(230万バレル増)に対し、490万バレル減となったことから、37ドル台後半まで値上がりした。また、クウェートのOPEC理事が、4月17日の産油国会合では2月の生産水準か、1月と2月の平均生産水準で凍結の合意が得られそうだと発言したことも、値上がりを支えた。

5月限の終値は、前日比1.86ドル高の1バレル37.75ドル、6月限の終値は、前日比1.87ドル高の1バレル38.98ドルだった。

EIAによると、4月4日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比1.7セント値上がりの1ガロン2.083ドル(61.8円/ℓ)となった。ディーゼルは0.6セント値下がりの2.115ドル(62.8円/ℓ)。ガソリンは7週連続の値上がり、ディーゼルは7週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、3月27日~4月2日に休止したトッパー能力は、27.8万バレル/日と先週から6.5万バレル/日の増加。(全処理能力は391.7万バレル/日)。

原油処理量は377.0万kl、前週に比べ11.7万kl減。前年に対しては、9.1万klの増加。トッパー稼働率は86.5と前週に対しては2.7ポイントの減少、前年に対しては2.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油のみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/10.8%増、ジェット/16.6%減、灯油/3.8%増、軽油/8.1%減、A重油/5.0%減、C重油/14.2%減。今週のC重油の輸入は3.9万kl(前週比2.5万kl減)。軽油の輸出は28.1万kl(前週比10.2万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比では灯油、C重油で減少し、その他の油種で増加した。前年比ではC重油のみが減少し、その他すべての油種で増加した。元売各社の仕切価格値上げ前の仮需もあり、ガソリンで105.1万kl(対前週16.7%増)と2週振りに100万kl台に乗り、2週振りの前年超えとなった。

ジェット13.6万kl(対前週127.5%増)、灯油30.7万kl(対前週23.7%減)、軽油67.9万kl(対前週4.4%増)、A重油27.0万kl(対前週7.7%増)、C重油27.5万

kl(対前週23.6%減)。

(単位:千KL)

	今週 (3/27 ~ 4/2)	前週 (3/20 ~ 3/26)	前週比
ガソリン	1,051	901	▲ 150 (17%)
ジェット燃料	136	60	▲ 76 (127%)
灯油	307	402	▼ -95 (-24%)
軽油	679	650	▲ 29 (4%)
A重油	270	250	▲ 20 (8%)
C重油	275	359	▼ -84 (-23%)
合計	2,718	2,622	▲ 96 (4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月2日時点の在庫は灯油、A重油で積み増しとなり、前年に対してはガソリン、A重油のみが積み増し、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは168.2万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては2.6万kl多い。

灯油は114.5万kl、前週差1.8万kl増。前年に対しては16.1万kl少ない。

軽油は132.2万kl、前週差15.6万kl減。前年に対しては20.9万kl少ない。

A重油は77.0万kl、前週差1.0万kl増。前年に対しては1.9万kl多い。

C重油は196.5万kl、前週差4.4万kl減。前年に対しては5.5万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (4/2)	前週 (3/26)	前週比
ガソリン	1,682	1,688	▼ -6 (-0%)
ジェット燃料	903	929	▼ -26 (-3%)
灯油	1,145	1,127	▲ 18 (2%)
軽油	1,322	1,478	▼ -156 (-11%)
A重油	770	760	▲ 10 (1%)
C重油	1,965	2,009	▼ -44 (-2%)
合計	7,787	7,991	▼ -204 (-2.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月29日から4月4日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートも小幅に円高で、原油コストは小幅な値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン89~94円台、軽油34~38円台、灯油35~38円台だった。海上スポット価格は、ガソリン93~94円台、軽油36~37円台、灯油33~35円台である。また、先物価格はガソリン92~94円台、軽油33~35円台、灯油33~35円台だった。卸価格値上がりの影響が製品スポット市場にも波及し、製品市況も陸上物を中心に堅調だった。

EMGマーケティングは7日、9日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種据え置き旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの値上がりに対応して、堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、2週振りに100万klを上回った。

4月第2週(4月7日~4月13日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月29日~4月4日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは2.9円、軽油は2.8円、灯油は2.5円の値上がり、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが3.2円、軽油は0.6円の値上がり、灯油は0.6円の値下がりだった。また先物価格は、ガソリンが0.6円、灯油が0.7円、軽油が1.5円の値下がりだった。原油コストは小幅な値下がり、スポット製品価格は一般的に堅調に推移した。

4月第2週の大手元売の卸価格は、横ばいから5.5円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
スポット価格	陸上ローリー4地区平均	今週 (3/29 ~ 4/4)	前週 (3/22 ~ 3/28)	前週比
	レギュラー	38.5	35.6	▲ 2.9
	灯油	36.8	34.3	▲ 2.5
	軽油	36.5	33.7	▲ 2.8

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先物価格	期近物/終値[平均]	今週 (3/29 ~ 4/4)	前週 (3/22 ~ 3/28)	前週比
	レギュラー	39.9	40.5	▼ -0.6
	灯油	34.8	35.5	▼ -0.7
	軽油	34.7	36.2	▼ -1.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/29~4/4実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 2.9	▼ -0.6	▲ 1.1	
灯油	▲ 2.5	▼ -0.7	▲ 0.9	
軽油	▲ 2.8	▼ -1.5	▲ 0.6	
A重油	▲ 2.4			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月4日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.3円値上がりの114.6円、軽油は0.8円値上がりの98.3円、灯油は0.4円値上がりの61.4円だった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油は3週連続の値上がり、灯油は39週振りの値上がり。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは47全都道府県、横ばい、値下がりはない。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、高知県(前週比1.1円高)の106.1円で、埼玉県(同0.7円高)が109.5円で続いている。最高値は鹿児島県(同1.0円高)の123.7円だった。都道府県別

で最も値上がりしたのは岡山県(同3.4円高)で115.1円だった。

原油コストは値下がりしたものの、卸価格は一部を除き据え置きだった。製品スポット市況もやや軟調に転じつつあるが、次週の小売価格は、前週までの卸価格引き上げの影響も残り、小幅な値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)			直近高値	
小売価格	今週 (4/4)	前週 (3/28)	前週比			
レギュラー	114.6	113.3	▲ 1.3	08/8/4	185.1	
灯油	61.4	61.0	▲ 0.4	08/8/11	132.1	
軽油	98.3	97.5	▲ 0.8	08/8/4	167.4	

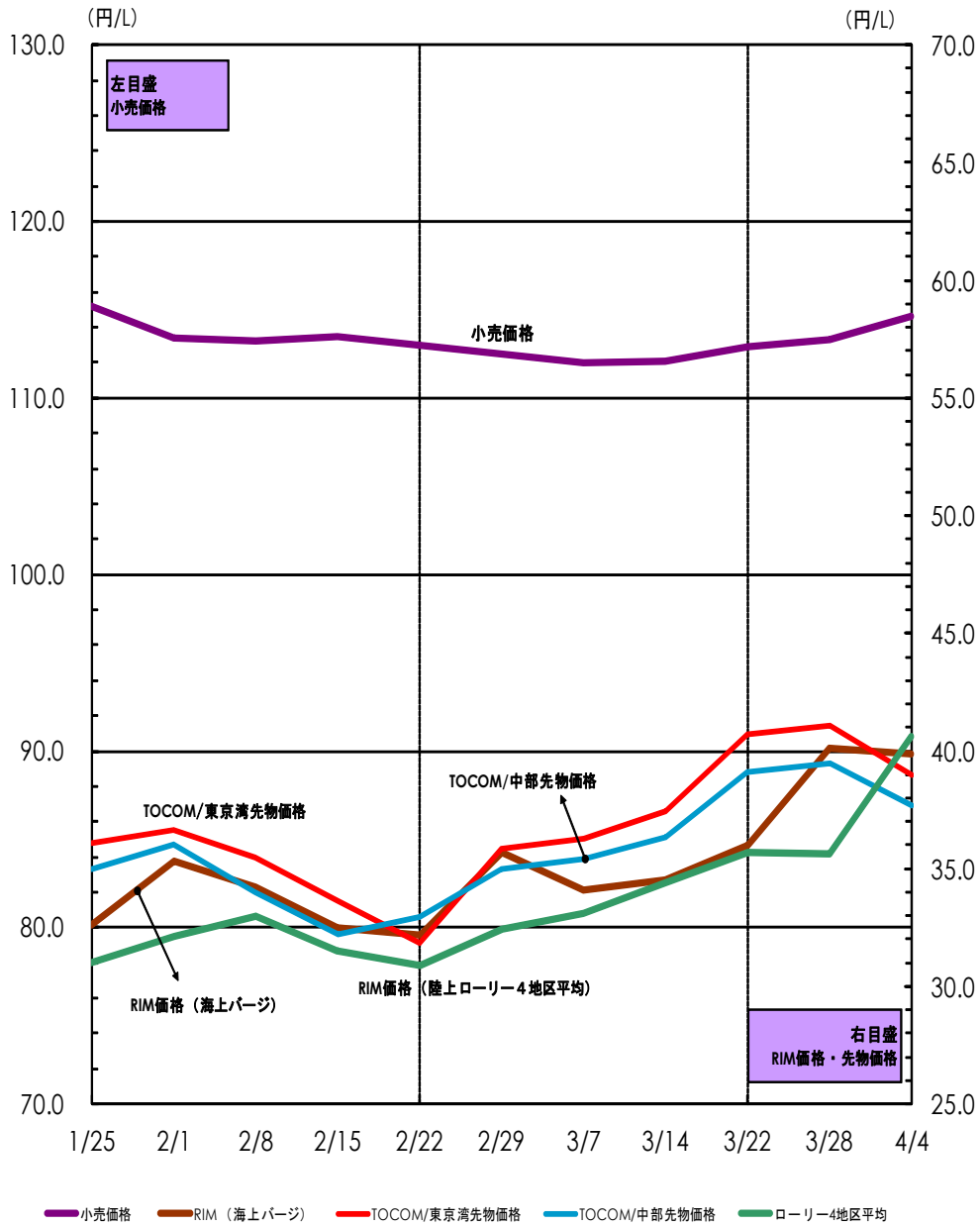
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/1/25 ~ 2016/4/4)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第3号)の公表は、4/15(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年4月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。